

自分に自信をもち、新しいことに挑戦しようとする生徒を育てる学級活動の工夫  
～互いのよさや頑張っているところを認め励まし合う活動を通して～

特別活動班 関井 貴美枝 (中学校教諭)

## 生徒の実態

- ・ 中学2年生
- ・ 10名の少人数クラス
- ・ 小学校からの単学級
- ・ 友達に対して固定的なイメージをもつ
- ・ 苦手な分野に対して自信がもてずあきらめる

## 課題解決策

友達の新たなよさを見付ける  
自分に自信をもつ

手だて①計画委員の活動 ②話し合い活動  
③行事への振り返り

班共通の視点とのかかわり  
一人一人が活躍する場を設定し、よさ  
や頑張りを認め合える話し合い活動

## 目指す生徒像

新しいことへの挑戦

- ・ 苦手なことでもあきらめない
- ・ 友達を認め助け合う

## 実践概要

## 生徒の変容

### 手だて1：計画委員の活動

計画委員を輪番制(3～4名)で設定。アンケート集計や話し合い活動の司会進行、事前打ち合わせなどを行った。一人一人が活躍できる場を確保した。

計画委員と相談しながら進めることで生徒理解が深まり、よさを引き出すことに有効であった。生徒は計画委員をすることで自信につながった。

### 手だて2：話し合い活動

友達のノートを使い、ポスターセッション形式で家庭学習のより効果的な方法について話合った。参考になったところを付箋紙に書いて説明者に渡した。共通の悩み「意欲を出すには」について話合った。出された意見一つずつに対して、意見や感想を出してもらいながら計画委員が進行した。また、事前に打合せをして家庭学習時間の長い生徒や得意教科がある生徒に勉強法を聞くなど意図的な指名を取り入れた。



質問を先にすることにより、目的意識をもって聞くことができた。説明する側も1人でするため活躍する場が広がった。ノートを紹介された生徒はうれしそうであり、友達が見ると思うとノートの使い方を工夫する生徒が増えた。話し合いにより明確な方法が決まるわけではないが、友達も同じことで悩んでいることを知り、自分を変えようとする気持ちが高まった。苦手なマツ運動に積極的に取組んだり、古典の暗唱では教科書だけでなく配布した資料の文まで暗記したりする生徒が増えた。

### 手だて3：行事への振り返り

高原学校、文化祭などの行事が終わった後、一人一人の頑張っていたところをカードに書き本人に渡した。それは、教室に掲示し年間を通して見られるようにした。



褒められたところをより頑張ろうとする姿が見られた。ただ、活動が広がり過ぎてしまったためか、ありきたりな意見も多くなってしまった。目標をはっきりさせ、それについてのコメントを書くようにするとより深まると思う。

### 成果と課題

- ・ 計画委員の活動は、生徒の活躍の場を広げ、自信につながる。今後も継続していきたい。
- ・ 話し合い活動は、結論はでなくても話し合うことに意義がある。授業への取組や家庭学習の仕方に生徒の変容が見られた。今後、年間計画を見直し生徒が主体的に取り組める議題の精選を校内で検討していきたい。